

大阪医科大学三島南病院の動向

大阪医科大学三島南病院
病院長

後藤 研三

大阪医科大学三島南病院は、学校法人大阪医科薬科大学の附設医療施設として、平成27年7月1日に開設いたしました。

当院は、救急・急性期、回復期、療養医療を担う214床の入院病床に加え、血液浄化センター、サイバーナイフセンターを有し、また、地域医療包括センターとして、訪問看護ステーション、ケアプランセンター、デイケアを整備しているケアミックス型病院です。



▲図1：病院パンフレット



▲図2：サイバーナイフⅡ

我が国は、超少子超高齢化時代を迎え、国策である地域包括ケアシステムの構築を進めております。その観点に立って、健康科学クリニックにおいては、予防医学の観点から様々な検診を行い、大学病院では、特定機能病院としての高度急性期医療を、そして当院では救急医療、急性期医療、回復期医療、地域包括ケア病床を含む慢性期医療を、さらには訪問看護ステーションやデイケアにおける在宅医療まで、地域の医療機関と密に連携する医療のモデルを形成し、地域の方々への良質で安心安全な医療が提供できるよう努めております。

当院は開設以来、大阪医科大学附属病院と医師、看護師、技師、事務職員などの人事交流を行なっております。病院長補佐として、大阪医科大学消化器内科教授 樋口和秀先生に就任していただき、教授、准教授、講師、助教等を配置、

さらには専門外来として、神経内科教授木村文治先生、脳神経外科教授梶本宣永先生、リウマチ・膠原病内科教授榎野茂樹先生、乳腺・内分泌外科教授岩本充彦先生等多数の先生方に外来診療を担当していただいております。

本学創立100周年に向けて、大学附属病院では5号館立替の準備も進んでいるかと思えます。工事期間中は病床が減少しますので、当院の病床を有効に活用していただき、患者様や周囲の施設に迷惑のかからないようにしてまいりたいと思えます。皆様方からのご期待に沿えるよう医療レベルのさらなる向上にも努めてゆく所存です。

また今年度からは大学附設の病院として、医学部、看護学部からの学生実習や海外からの看護師実習を受け入れております。大阪医科大学として、医学生への世界標準の臨床実習・臨床研修の充実など、一貫した卒前卒後教育制度の確立が急がれております。当院と致しましても、今後は診療面だけでなく、教育面に関しての指導体制の強化も必要ですが、まだまだ教育スタッフが手薄（教員は13名）な状況です。職員一同常にSSD（Staff Self - Development）に取り組んでおりますが、大学の先生方にも一層のご指導・ご協力を賜りたく存じます。

ハード面では、外来フロアや病棟の改修・美装化や患者様が横たわったまま入浴できる特殊入浴室を二室に増設し、患者様に少しでも快適な入院生活をしていただけるようにいたしました。また今年度は臨床検査科に、迅速に測定できかつ試薬の使用量が少なく

くて済むバックマン・コールスターの新製品、生化学自動分析装置「DxC 700 AU」の全世

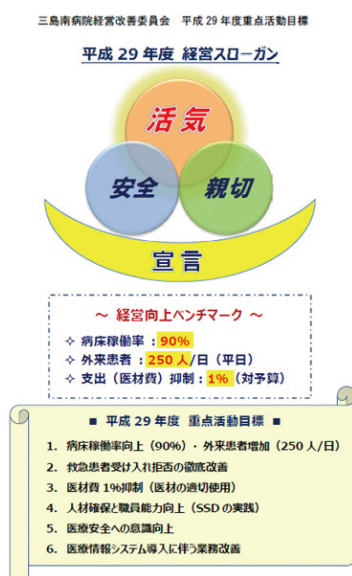


▲図3：DxC 700AU

界1号機を導入しました。本院と同じ機器シリーズと試薬に統一することで、検査データの互換性を高めるなど、医療環境の整備にも取り組んできました。

病院の運営・経営に関しましては、月1~2回、病院長補佐の樋口先生はじめ各部門の責任者が集まり運営上の諸問題を検討しております。また、毎月法人側から植木理事長を筆頭に、佐野常務理事、大学の病院長、看護部長等のメンバー、三島南病院からは、病院長、病院長補佐、副院長、各診療科部長、看護部長、各部門長が出席し、相互の連携強化を図り、経営上の諸問題の改善策について協議しています。

おかげで、経営状態は少しずつ改善してきており、平成28年度は外来患者数67,235人（平日平均242.2人）入院患者数66,882人、病床稼働率は85.6%でした。



▲図4：経営スローガン

今年度は、活気・安全・親切を経営スローガンに掲げ、経営向上ベンチマークとして、病床稼働率90%、平日外来患者数250名を目標に取り組んでおります。

この目標達成に向かって、今年度のスタッフは、常勤医師19名（教員13名、病院医師6名）、非常勤医師52名（当直医師含む）、看護師（准看護師含む）121名、看護助手・クラーク47名、技

師70名、事務職員64名、地域医療包括センター29名の総勢約400名で頑張っております。

平成30年1月には当院にも電子カルテが導入され、大学とも直結となります。

患者情報の迅速化・共有化が図られ、診療面での安全性やチーム医療の向上にも貢献できると考えます。現在は導入に向けたシステムの構築に取り組んでおります。

尚、当院の名称である「大阪医科大学三島南病院」については、当院が高槻市・茨木市・摂津市・島本町からなる三島医療圏の南部の医療を担うこと、そして大阪医科大学の前身である大阪高等医学専門学校の附属病院が「三島病院」と称していたことを勘案し命名されました。

私たちは常に自己啓発に努め、良識ある人間性豊かな医療人として、新たなタイプのケアミックス型病院「大阪医科大学三島南病院」の名に恥じないよう、また、地域の人々に信頼され、必要とされる病院になるように、患者様の意志を尊重し、やさしい心の行き届いた医療を、近隣の医療機関とともに実践してゆく所存です。今後とも大阪医科大学医師会の先生方の一層のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

当院への交通アクセスとしましては、阪急茨木駅からの京阪バス（最寄バス停：白川3丁目）のほか、本学と当院間のシャトルバスも1日8往復運行しておりますので是非ご利用ください。

交通アクセス



（公共交通機関をご利用の方）

- JR 茨木駅 京阪バスに乗り（約20分）→「玉川橋駅」又は「白川3丁目」下車 徒歩1～2分
- 阪急茨木駅 京阪バスに乗り（約15分）→「玉川橋駅」又は「白川3丁目」下車 徒歩1～2分
- 京阪 枚方駅 京阪バスに乗り（約20分）→「玉川橋駅」下車 徒歩2分

■ シャトルバス運行 土・日・祝日、6/1、12/30～1/3は運休
三島南病院 ⇄ 大阪医科大学附属病院 月～金 9:00～17:00（1時間に1本）

▲図5：交通アクセス